



岡村病院
院内報

歩 (あゆみ)

第 8 号

発行 岡村病院
編集 歩 (あゆみ)
編集委員会
平成 6 年 6 月 1 日

岡村病院 基本理念

私たちは、患者さん本位を第一に考え
高度な専門医療技術をもって
地域社会に貢献することを目指します。



岡村病院 一般病室

今月のことば

あいさつ

ある雑誌の人生相談に「私は長男夫婦と同居しています。嫁は何でもよく出来る立派な人ですけど、朝、顔をあわせた時にあいさつをしてくれません。それで私はその事が気にかかって、一日中、明るい気持ちになれないでいます」という年配の女の方の相談が載っていました。

たかがあいさつ位でと思うかも知れませんが、受取る方では、そんなに深刻に考えている人もあります。特に年寄りには、孤独になりますので、用事がなくても声をかけましょう。それに年を取ると、したいと思いつながら自分では出来ず、それかと言って自分から人に頼むこともようぜずにいる場合が多いのです。

病気の人も同じです。こちらに用事がなくても声をかけてあげて「何か用事はないですか」と言ってあげたら、どんなに喜ばれるでしょう。

入院しておられる方、診察や治療に来院される方に、やさしいあいさつの言葉をかけましょう。それはお金がなくても出来る最高の親切です。

木口小平論



院長・心臓血管外科医長 岡村 高雄

木口小平（キグチコヘイ）という人物を知っている人は現在では非常に少なく、又この名前を出す事は非常に古い人と思われるかも知れませんが、物事の例としてお話をさせていただきます。歴史によりますと、木口小平は日清戦争の明治27年に戦死した進軍ラッパの名手でありました。なぜ有名になったかと申しますと、成歎の戦闘に際して敵弾に倒れて戦死を致しましたが、死んでもラッパを口から離さなかった美談の主として、当時の教科書に載せられたからであります。つまり、仕事に大変忠実である事、命令された事を最後まで実行する事が、当時としては国の考え方として重要であり、その例として有名になったものと思われます。しかし、私には命令された事、決められた事のみを実行する融通のきかない当時の考え方は、現在では弊害を有するのではないかと考えます。私達の日常の仕事でも多種多様な場合に遭遇いたしますが、社会の変化、患者さんの要望に対し

ては積極的に良い方向へ変化して行く事がこれからの時代に必要ではないかと考えられます。

基本的に重要な「患者さん本位の治療」は堅持しつつも、実務においてはいつまでも古い習慣、決定にとられる事なく対応していくべきと思われます。例えば、病院の消灯は22時と多くの病院では決められておりますが、現代人は深夜族が多くなっており、他の患者さんに迷惑となる又は治療上必要である場合以外は22時でなくてよいと考えておりますし、又入院した女性がお化粧すると顔色が分からなくなり治療上お化粧をしないなどという事が最近までありました。しかし、女性はお化粧をする事により活気が出て来て、逆に治療上も早期に元気になるものと思われます。

私達はいつまでも明治の教科書に出てくる木口小平にとられる事なく、平成の時代は自由な発想と柔軟な対応を必要とする時代であると考えられます。

新病院建築紹介（第4回）

色彩とアート

病院の内装の色は現在までは白と決まっておりましたが、これは誰が決めたのでしょうか。多分、白は清潔感という意味で多く用いられたと思われませんが、人々の心に対しては冷たい色と考えられます。日本ではまだ病院の内装の色彩まで十分に注意が払われておりませんが、米国では内装の専門家がおり、この中の1人であるジェーン・マルキン氏が出版している本には大変色彩に関して興味ある事が書かれております。例えば、長時間白一色の中にいますと刺激が少なくなり患者さんは次第に時間の感覚を失ない、頭がボケて行ってしまう事があるとか、赤い色の中に入ると明らかに血圧が上昇し、時間の感覚では早く時間が過ぎてしまうとか、色彩が患者さんの治療効果にまで影響する事がわかって

おります。この為、本院の内装に際しましては、出来るだけ患者さんの心を和らげる事を目的として、芸術家である西悟氏のアドバイスも加えまして、基本的な色彩をピンク、ブルー、グレーと致しました。廊下等の壁面には多くの現代美術を設計の時より掛ける事を考えて、照明との位置関係にも配慮をいたしました。吹き抜けの待ち合いホールには現代美術の第1人者である名古屋市在住の庄司 達氏に設計時より「浮かぶ布」を依頼して設置いたしております。2Fより見る「浮かぶ布」も又1Fと違った顔を見せていますので御自由に2Fより御覧下さい。



浮かぶ布

看護これから(2)

副総婦長 谷脇美千恵



看護するという事は、「患者さん本位」の看護観を持ち、「その人らしさ」を大切にしたい人間関係を築くこと、というお話をしました。今回は「人間関係」について話してみよう。

「患者本位」「患者中心」というように、患者さんのニーズを知り、それに応えていく医療や看護というときに、皆さんに注目してほしいのは「わたし」の存在です。患者さんと看護する私の関係は、人間関係の相互主体ということにあるのです。相互主体とは、「わたし」も変わり「あなた」も変わり、そうしてお互いに成長してゆくということです。「わたし」は「あなた」のために時間と労力を捧げて生きているが、「あなた」はそれを受けとめながら、生きる喜び、共にある喜びを味わい感じる。場合によっては、それを感謝の言葉や態度で示される。「わたし」はそれを知り、また感じて、自分中心の考え方や生き方を砕かれ、本当の生きがいとは何かを教えられていく。

決して、一方が与え、一方が受け取るという形ではありません。お互いが分け合っているというのが事実です。「あなたの為に時間と労力を捧げて生きる」という表現をしましたので、いささか気が重くなったかもしれません。それほど人間関係のとても深いところを、この相互主体ということには内に含んでいるようです。

一方、あまり良くない例ですが、患者さんに食事指導をしても、患者さんがそれに添って変わってくれないと、あたかも相手が悪いかのようになってしまふ。わたしの計画が適切でないなどと思つゆ思えない。私がこれくらい一生懸命計画を立てたのだから、計画や指導を実行しない相手が悪いと。悪いのはみな相手のせいになってしまうのです。

これは、患者さんを見るとき「わたしとあなた」という人間関係でなく「わたしとそれ」の関係、相手を物のように見ていると相手の姿は見えてこないのです。相手を「ひと」として、「わたし」と同じように生きる人、生きようとしている人と認めるときに、相手の姿は見えて来ます。

相手を「ひと」として見るためには「わたし」が変わらなければなりません。「わたし」が退くと、相手ももっと前に出て、相手を見やすくなります。自分が変わらないで相手だけを変えようとしていなかったでしょうか。皆さんはご自分が「ひとに対して、いつもどんな関係に立とうとしているのか」と見つめてみてください。

給食部だより



適温適時給食、 そして選択メニューへ

管理栄養士 森光眞佐子

病院給食と言えば「早すぎる」「冷たい」「まずい」が相場で、病院給食の3悪と言われ続けて来ました。

当岡村病院では、病院の新装オープンに先がけた昨年11月上旬より、適温適時給食を実施しています。「早すぎる」に対しては、夕食時間を午後5時30より6時に変更し、より家庭での夕食時間に近づけました。「冷たい」に対しては、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく供することができるよう、保温保冷機能(ワントレイ方式)を持つ冷蔵配膳車を導入しました。

調理員の勤務時間の調整、配膳車の効率的な利用方法の模索等、その他様々の問題を、病院スタッフの協力、厨房内での話し合いを経て、乗り越えて来ました。

「まずい」については、新献立実施の際には味が定まらず、努力の割には成果が出ませんが、適温給食の導入に助けられ、徐々に向上しているのではないかと思います。より一層皆様のご意見に耳を傾けて頑張っていきたいと考えています。

このように、適時適温給食を実施してから、半年を経過した現在、より良い病院給食を目指して、新しい飛躍をしたく、その準備に入っています。

これは「選択メニュー」という名で呼ばれていますが、メニューを選べる・選択できる給食に、一歩ずつ近づけたいと思います。

6月中に、試行の予定ですが、各部所、特に病棟看護部門との連携を密にし、慎重にプランを練り上げねばと、努力の毎日です。

患者さんからのご便り

病室の花暦

高知市 杉本 節子

年を忘れたハードな旅に、膝を痛め、とうとう入院したのが4月21日。

身の廻りの品と共に、庭の「都忘れ」とフリージアの花を携えて来ました。長引く事を覚悟で、その夜、カレンダーを作り、日づけの下にメモ用の空欄をこしらえました。

翌日、早々と百合、トルコ桔梗、霞草の大きな花束。次の日は貴婦人の様な白いカトレアがペーパーレースにくるまれてとどきました。そこで空欄に花の名が列なり花暦になりました。小さな可憐な「しゃもじおもだか」の盛籠。27日の朝、それはそれは見事な黒牡丹の大輪。散る前に一目だけでもとの差入れ、堂々たる華麗な黒紫色の大輪、馥郁たる香は室一杯にひろがりました。特に百花の王。翌日残念乍らさらさらと散り果てました。

解脱して牡丹くずるるあしたかな

29日の夕。思いがけずフレスノよりのミセス・サティとジュディが大きな花束を抱えて現れました。オドロキ。3年振りの面会、感謝の握手。白い水盤に水蓮の花。モネの絵の話がはずむ。芍薬の花。カーネーション。グラジオラス。

神戸から白い胡蝶蘭の鉢がとどきました。野の花籠、母子草、きつねのぼたん、白山吹、野いちご、ほたる袋、どくだみ。なつかしい。

星野富弘さんの詩集「風の旅」の中から、血圧を採りに来た看護婦さんに「貴女にふさわしい詩——一寸みて——。最後の1行は違うけど……」。「あっ、星野さんの？」——さすが……。

不慮の事故で首から下の自由を失った方の詩である。「くちなし」（「風の旅」より）

真白な服を着て
しとやかで
あなたが来ると
部屋中の人があつとりする
看護婦さんあなたは
くちなしの花のような人です
私がいとその人は
ひと声あげてとび出していった
口の大きな看護婦さんだった

5月12日、鉄線の花となでしこ。この鉄線に初めて出合ったのは、40年前、東京三越の美術展示場、備前の徳利に濃い紫の花一輪。その素晴らしさに、目が一つになりました。二度目の出合は、高知も円行寺あたりは未だ田や畑、畦道をたどった果に、薬屋根の廃屋がありました。くずれかけた壁に大八車のわだちが一つ、その前に、2、3本の高い細竹に濃紫の鉄線の花が沢山咲いていました。こんな場所に。その気品のある美しい花に暫く立ちつくしました。



京鹿の子、あじさい、かいう。どんどん花も季節につれてかわりました。

5月末日、谷先生の御許しが出て退院のはこびとなりました。御立派な先生方や看護婦さん達に優しくして頂き、感謝しながらの日々でした。これで私の花暦も終わりました。

(5月31日)

院内勉強会のお知らせ

下記の通り院内勉強会を行っています。興味のある方はどなたでも参加して下さい。

場 所	2 F 職員食堂兼会議室
講 師	岡村 高雄院長
時 間	17:40より約1時間

テーマ

- 5月24日(火) 虚血性疾患
(狭心症・心筋梗塞)の病態
- 5月26日(木) 虚血性心疾患の診断と治療
- 5月31日(火) 心不全、ショックの病態
- 6月2日(木) 心不全、ショックの治療
- 6月7日(火) 救急蘇生
- 6月9日(木) 心電図の基礎
- 6月14日(火) 注意すべき不整脈の見かたと治療
- 6月16日(木) 人工ペースメーカー

以 上

ひろば



想　　い

看護婦 杉本寿美恵

3年間の学生生活を終え、新しくなった岡村病院に帰って来ました。

人生の半ばで、仕事を離れ1人の学生として純粹に「学ぶ」という日々を送れたことは、自分自身を見つめ直す上でも、貴重な体験となりました。出会った人々から学んだことを思うと3年といっても非常に凝縮された時間でした。

教務の先生方は、私達に先生と学生ではなく1人の人間対人間として接して下さい、自らの姿でもって看護者としての態度を教えてくださいました。そして、先生方の常に学ぼうとされる謙虚な姿勢も心に残っています。

またクラスメートからは、臨床実習に出た時未熟ながらも、その患者さんに精一杯の想いを寄せ、決して逃げずに全力で向って行く姿や失敗をした時も、その自分をふり返り気付きを得て行く誠実な姿を見て、私とはげまされ困難な事に向って行く勇気を得たり、清々しい気持ちになりました。

この先生やクラスメートの姿は、3F病棟で勤務するようになってからも折に触れて思い出し、その度に看護に対する想いや自分自身をふり返ることになります。

先日、外来の看護婦さんが処置や検査の事などを親切に教えて下さり、うれしく思いました。またそんな人柄に触れ、心が元気になりました。このように、ささいな事でも人の気持ちは大きく変わります。しかもそれが健康を害し限られた生活を送っている患者さんにとっては、なおさら大きく響くことでしょう。

私は看護の関わりの中で、言葉にならない患者さんの想いを感じ取り、その個性や1人ひとりの思いを大切に出来る看護者で在りたいと思っています。そして、それが看護者の自己満足に落ち入らないために、状況を見極め多面的で客観的なアプローチが出来る眼を養い、自分を育てて行きたいと思っています。

看護者の思いは、その人の人間性を通して相手に伝えられます。それは、その人の人間とし

ての質が問われると言う事です。

岡村病院でも、たくさんの人との出会いがあるとします。お互いを高め合い、看護の喜びをわかち合える仲間として頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。



これからに向けて

検査室 嶋岡 敬子

この病院で、臨床検査技師として入って、早くも2ヶ月が過ぎようとしています。長いようで短い2ヶ月と思えます。学生時代に行っていた病院実習とは違い、あたり前の事ですが、検査を行い、その結果に対して「責任」があり、緊張の毎日です。この緊張感をずっと持ち続けて、仕事をしていきたいと考えます。

これからは、学生時代の勉強とは、違う実技の勉強をしていくのですが、まだまだ勉強不足と感じる事もあり、覚えなくてはならない事もたくさんありますが、先輩の方達にご指導頂いて、頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。



私のペット

事務 小田 和江

私は、一昨年夏から、ハムスターを飼っています。小学生の時から、“飼ってみたいなあ”という気持ちはありましたが、なかなか両親の許可がもらえず、諦めていました。でも、去年の夏に友達と、ペット・ショップで見かけた時、“かわいいなあ”と思い、すぐに買って帰りました。

そして、家族が最初に見た時は、“かわいいけど、最後まできちんとめんどうを見ることが出来る？”ということ聞かれ、私は少し考えましたが、飼うときめたからには、責任を持ってめんどうを見ると約束し、許可をもらいました。今ではすっかり懐いて、名前を呼ぶと振り返って、私の方に近寄ってきたり、食べ物を見たりすると、食べたそうな顔をするので、あげると、口の中いっぱいにつめこんだりするので、見ているだけで、気持ちがなごんできます。また、大切な家族の一員として、これからも、かわいがっていかうと思っています。

今月のチャレンジ目標

患者さんの要望に
迅速に対応する

ニューフェイスです。ヨ・ロ・シ・ク!!



道中 泰典先生
整形外科医師（非常勤）
香川県出身。高知医大卒
毎週火曜日に来られています。



市原 育美さん
看護婦
県医師会准看護学院
高知市一宮



畠山 秋美さん
看護婦
中央高校看護科・農協病院
高知市一宮

～合格おめでとございます～

薬剤師国家試験合格

（4月2、3日実施、4月27日発表）

常光さゆりさん

看護婦国家試験合格

（3月6日実施、4月20日発表）

大杉 佐代さん 上村 陽子さん
杉本寿美恵さん 笹岡 美紀さん
武藤亜希子さん 和田 光代さん
重山 佳子さん

臨床検査技師国家試験合格

（3月13日実施、4月21日発表）

嶋岡 敬子さん

〈人事〉（6月1日付）

島崎 巖先生（放射線技師）放射線技師長に
林 道子さん（看護婦）4階病棟主任に

●● 休日・夜間の受付について ●●

現在治療中の方、紹介のある方は、休日・夜間も診察を受付けています。

従業員研修電話応待セミナー

5月19日(木)、NTTパステルの方達による電話応待セミナーが催されました。看護婦さん、事務員、学生さん達12名が受講しました。約2時間、普段の挨拶から始まり、電話の対応の役割や基本、実際に仮設の電話機を使って電話の受け方や取り次ぎ方、こちらからかける場合などを時間や名差し人を指定して行いました。普段使っている言葉使いがいついってしまっていて、改まった言葉がすぐに出ず、困りました。

今回、このセミナーを受講したことによって、次に電話を取る時に気をつけて対応するよう、急いでいても落ち着いてははっきりと話せるように心がけたいと改めて思いました。大変有益でした。受講して良かったと思います。

（事務 山本由紀）



〇√ スワン会主催テニス 〇√

5月27日(金)午後6時から、スワン会主催のテニスがサンピア高知で催されました。

参加者は岡村院長、川村Dr.はじめ事務員、看護婦合せて11名、8時まで楽しい時間を過ごしました。

私はテニスは初めてで、ルールはもちろん、ラケットの持ち方、振り方も知りませんでした。先輩の方から教えて頂きました。

体を動かす事は好きな方ですので、張り切っていました。中々思う様にはいかず、何度も皆さんの足を引っ張り、悔しい思いもりましたが、楽しい2時間でした。

翌日、心配していた筋肉痛にあい、仕事が大変でしたが、楽しくプレイさせて頂きましたので、そういう事は気にしません。これを機に、運動不足気味の私は体育の行事には積極的に参加させて頂きたいと思います。皆さんもいかがですか。（4F病棟 武島しのぶ）

次回テニスは6月21日(火)の予定です。